



的に話していて楽しい人。知識や得意なことがあって、お互いが刺激になり、お互いになる人。お金を持っているかどうかは関係ない」という答えが返ってきました。お願いだけをする人や、仕事やお金のためだけに活動している人とは合わないといいます。お互いに自分のビジョンがあり信頼ができる人と、共通の価値観を持って一緒に仕事することが、トータルパフォーマンスを最大にすることに繋がること。ともに頑張れる人とネットワークを築くことで、やる気を引き出す環境を作っていくのだそうです。

「自分がハッピーで、わくわくしている状態をいかに継続的に作っていくか？」が伊藤氏のモチベーションの源泉。興味・関心のあることやアイデアが湧き上がったら、それを形にし、周りの人も巻き込んでいき、周りも自分もハッピーになる。それをずっとやり続けてきたから、今の伊藤氏があるといえるでしょう。

人生の中で一番大事にしているモノ

「常に好きな人と、楽しいことをやり続けた」と微笑む伊藤氏。お金や名誉に汲々とする世間と比較すると、欲のない謙虚な姿はとて新鮮に映ります。

話しながら伊藤氏の瞳は、子供のよう好奇心に満ち溢れて楽しそうにきらきらと輝いていました。

歳、性別、国籍など、全てのバリアを打ち壊す力は、“人の心”の中にこそ存在しているといえます。伊藤氏の目の輝きは、まさにその心のパワーを表しているといえるでしょう。そんな伊藤氏が、人生の中で一番大事にしているものとは……。

「人生の中で一番大事にしているモノはやはり“創造と行動の自由”。いつも好きなことをやる。どこか行って誰かに会う、アイデアがあったら始めてみる、仮説があったら試してみることです。それが常にできるようなポジションにいたいし、束縛されずに思いついた時、すぐ動いて実現したい」。

最終的な目標

これまで、さまざまな事業を立ち上げ、ベンチャーキャピタリストとして活躍されている伊藤氏の、「最終的な目標」とは…。

「基本的には好きな人たちと、刺激のある、変化に富んだ仕事、活動を続けていくことです」。

逆に、常に、考え、アイデアを形にし、動き続けたい、という現場主義の伊藤氏が恐れることは、「一番怖いのは退屈になること」。続けていくわ「退屈な仕事や、退屈な人たちと会っていただけない役割になりたいとは思わない」。

ここで言う“退屈”とは、現場から離れること。それはつまり伊藤氏にとってすでに仕事ではないということなのでしょう。

「面白い人たちと話をし、会社でもNPOでも新しいことを繋げていくこと自体が楽しいし、これからもやっていきたい。自分が面白いと思っていることは、不思議と自然に繋がってきます。面白いと思える個人と個人を繋げることで、新しいビジネスモデルができたり、企業ができたりする。その役割が楽しい。仕事としては投資だけけど、やっていることは人と人を繋げることですね」。

今後、伊藤氏がどんな人達を結びつけ、何を創り上げていくのが非常に楽しみで、ますます、その仕事ぶりから目が離せないといえるでしょう。

● おわりに

華麗な経歴から、お会いするまでは「一癖ある人なのでは？」と思っていましたが、実にさわやかで人当たりの柔らかい方でした。そして、その瞳はどこに楽しいことが転がっているかと常にワクワクしているかのように輝いていました。好きなことを好きなように実現したいという気持ちが伊藤氏の原動力となっていることがひしひしと伝わってきたインタビューでした。

Profile | 伊藤 穰一 (いとう じょういち) ● 1966年京都市生まれ。3歳のとき両親とともに渡米、中学までを過ごし、帰国後はアメリカンスクールへ通う。その後再度渡米し、米国タフツ大学にてコンピュータサイエンスを専攻、米国シカゴ大学に転入し物理学を専攻後1987年に休学。シカゴ大学休学後は日米にてメディア関連の仕事やソフトウェア会社、イベント会社等の経営を経て、1994年(有)エコスを設立。インターネット業界の先端をいく企業として注目される。翌年設立した(株)デジタルガレージでは1996年に米国大手検索エンジン(当時)のインフォシーク社と業務提携しインフォシーク Japan を立ち上げる。1999年には(株)インフォシーク設立。2000年、(株)ネオテニーにてITベンチャーの支援・投資事業スタート。

■ホームページ <http://joi.ito.com/>

● 取材を終えて

- ◆ 私と同じ年齢なのですが、伊藤さんは遥かに多くのことを成し遂げています。きっと、好きなことに取り組む本気さが違うのでしょう。伊藤さんを見習って、これからはもっと本気でチャレンジしていきます！(小野)
- ◆ 好きなことだけは困難ですが、仕事を楽しむということは実践できると思います。伊藤さんの話を伺い、新しいことへの挑戦を忘れていた自分に気付かされました。伊藤さんの目は、本当に子供のように輝いていました。(加藤)
- ◆ 伊藤さんのお話に共感するところが多かったし、これからの生き方を考えさせて頂いた有意義な時間でした。人を愛し、人に優しく、人と共に、楽しく自分らしく生きたいなあ～と思いました。(チェ)
- ◆ 人と人とを繋げるという役割を、自分でデザイン・創り出して活動されている姿に、あこがれてしまいました。「もっと面白い人間にならなければ！」と思う今日この頃です。(米岡)
- ◆ カウンセリングを学んでいるものとして、伊藤さんには、本当にびっくりした。こんなに自分に素直に正直に生きている人が世の中にいるのか？…本当に素敵な生き方に感動しました。(龍崎)



(後列左から) 龍崎、チェ、米岡、小野、加藤
(前列) 伊藤氏